

令和8（2026）年度第80回記念栃木県芸術祭文芸賞審査結果（創作部門）

○ 応募者数 23人（18人）

○ 入賞者数 7人（7人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募作は前年より5点増えて23点。U25の出品が5点あり、若返りが進んだ。若い人には引き続き作品を書き続けて欲しい。佳作が多く、選考は難航した。

○ 文芸賞 ^{ぎょうてん}「暁天」

上司のパワハラでうつ病になった若い薬剤師。病院の中のうなぎ屋で、さまざまな人に会い、生きる意欲を取り戻す。文章がうまく、完成度は高い。タイトルにひと工夫が欲しい。

○ 第80回記念賞 「タイムマシン」

母一人、子一人の母子家庭に育った主人公。二人きりの生活には思い出がいっぱい。結婚して子が生まれ、孫ができる。一方母親は認知症を発症する。生きるとは何かを考えさせられる。

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25賞） ^{はなことば}「ムスカリの花言葉」

アレルギーやぜんそくに悩む少年と心臓病の少女。淡い恋心と少女の死。若者らしい作品。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

^{ぶすじま} 毒島 ^{ぜろ} 零 （神奈川県） ^{ぎょうてん}「暁天」

○ 第80回記念賞

^{よしだ} 吉田 ^{みのる} 稔 （宇都宮市） 「タイムマシン」

○ 準文芸賞 該当作なし

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25賞）

^{まるやま} 圓山 ^{ゆきな} 倅菜 （那須町） ^{はなことば}「ムスカリの花言葉」

○ 文芸奨励賞

あたゆうすけ （宇都宮市） ^{きみ}「いつも君がいる」

^{にしぞの} 西園 ^{たかこ} 多佳子 （宇都宮市） 「ファイトアゲイン」

^{おおいずみ} 大泉 ^{ようこ} 耀子 （宇都宮市） ^{ほし}「星をください」

^{あじさい} 紫陽花 （宇都宮市） ^{あお ひ うた}「蒼の日に歌う」

令和8（2026）年度第80回記念栃木県芸術祭文芸賞審査結果（随筆部門）

○ 応募者数 40人（27人）

○ 入賞者数 9人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募数が昨年に比べ格段に増えて、今年は40編だった。（昨年27編）
字数不足の作品がかなりあって、審査の対象からはずれてしまったのは惜しい。
世相を反映したものが多数見られ、関心の深さがうかがえる。

○ 文芸賞 ^{さんぽん みみ}「三本の耳」

「うさぎの耳は3本」という小学校の先生の教えは、正しくないものに
同調してしまう人間の弱さを象徴しているものだった。筆者の今後の人生
に深く影響を与える経験となるだろう。

○ 第80回記念賞 ^{しちがつ}「七月のフィナンシェ」

フィナンシェというお菓子から、ふるさと宇都宮への思いを強くするもの
を見出し、自分のルーツを改めて振り返った経験が書かれている。

○ 準文芸賞 ^{ねんご にひやくえん}「40年後も二百円」

母・僕・娘と受けつがれる本好きの系譜がペーソスを伴って描かれてい
る。

○ 準文芸賞 「ふれあい」

庭の植物や昆虫、とくにジョロウグモとのふれあいを詩情豊かに描いて
いる。

【入賞者名・作品名】

- | | | | |
|----------------------------|--------|----------------------------------|--|
| ○ 文芸賞 | | | |
| ^{しおの ほの} 汐野 帆乃 | (埼玉県) | ^{さんぽん みみ} 「三本の耳」 | |
| ○ 第80回記念賞 | | | |
| ^{やまだ あゆこ} 山田 亜友子 | (千葉県) | ^{しちがつ} 「七月のフィナンシェ」 | |
| ○ 準文芸賞 | | | |
| ^{おおつか まさはる} 大塚 正晴 | (宇都宮市) | ^{ねんご にひやくえん} 「40年後も二百円」 | |
| ^{たかざわ のぶこ} 高澤 修子 | (宇都宮市) | 「ふれあい」 | |
| ○ 栃木トヨタ自動車賞 (U25賞) | | 該当作なし | |
| ○ 文芸奨励賞 | | | |
| ^{にしぞの たかこ} 西園 多佳子 | (宇都宮市) | ^{う つ} 「受け継ぐもの」 | |
| ^{たけざわ みえこ} 竹澤 美恵子 | (宇都宮市) | ^さ 「お下がりリレー」 | |
| ^{おおいずみ ようこ} 大泉 耀子 | (宇都宮市) | ^{ね づ} 「根付く」 | |
| ^{やまぐち あきら} 山口 昭 | (宇都宮市) | ^{しく} 「仕組まれたロマンス」 | |
| ^{さとう よりこ} 佐藤 順子 | (宇都宮市) | ^{かせ ふ} 「風に吹かれて」 | |

令和 8（2026）年度第 80 回記念栃木県芸術祭文芸賞審査結果（詩部門）

○ 応募者数 33 人（33 人）

○ 入賞者数 8 人（9 人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

全体としてのレベルは高く読みごたえがあった。若い人の投稿がほしい。

○ 文芸賞 「^{きよ}虚」

仮面の発想、空虚さが広がってゆく表現はよい。さらによくするには自問する場面がほしい。

○ 第 80 回記念賞 「^{ついで}^{てがみ}追憶の手紙」

男の情念がうまく表現されていて、まさに、恋文というテーマが浮き彫りにされている。

○ 準文芸賞 「シオカラトンボ」

何気ない日常から、場面をうまく切り取っている。

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25 賞） 「^いゆっくり、生きる」

情景に自分の心情を重ねて表現し、読者の共感を得ている。感性がみずみずしい。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

^{むらたけ}村竹 ^{ひろし}弘 （足利市） 「^{きよ}虚」

○ 第 80 回記念賞

^{わたなべ}渡部 ^{としお}俊夫 （宇都宮市） 「^{ついで}^{てがみ}追憶の手紙」

○ 準文芸賞

くぼかわけんいち （宇都宮市） 「シオカラトンボ」

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25 賞）

^{みずき}水城 ^{けい}慧 （宇都宮市） 「^いゆっくり、生きる」

○ 文芸奨励賞

^{やしろ}屋代 ^{よしお}義夫 （宇都宮市） 「いつもそばに」

^{せきや}関谷 ひいず （佐野市） 「ふたまた」

^{すずき}鈴木 ^よみち代 （那須塩原市） 「^{さかみち}坂道（^{ついで}追憶 1978 年 5 月）」

^{やばた}谷畑 ^こすみ子 （真岡市） 「^{しゆくめいせん}宿命線」

令和8（2026）年度第80回記念栃木県芸術祭文芸賞審査結果（短歌部門）

○ 応募者数 46人（32人）

○ 入賞者数 10人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

全体的にレベルの高い作品が多く、選ぶのにとっても苦勞した。去年より応募作品が増え、作品の幅がふえた。

○ 文芸賞 「プレイリスト」

一首目のオノマトペが印象的。出産にともなう血なまぐさがなく、音楽にのせた軽やかな出産の光景が詠まれている。実感として、出産の迫力が伝わってくる。10首の構成もたくみで、高度な技術力、表現力に圧倒された。抽象的な面もあるが、実体験なので問題ない。

○ 第80回記念賞 「一瞬の夏」

とても瑞々しい作品。どの歌もまとまっていて、光景がせまってくる力のある短歌である。具体のひとつひとつが効果的。

○ 準文芸賞 「手術」

一首一首の完成度が高く、ストーリー性があり、まとまっている。

○ 準文芸賞 「縁」

母を介護する息子の思いに、切なさが表れていた。

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25賞） 「英国留学記」

日本を離れてイギリスへ渡る時の母との別れ、異国での暮らしが新鮮ではつらつとしていてよかった。想像を越えた世界。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

いさおか はるな
砂岡 春奈 （東京都） 「プレイリスト」

○ 第80回記念賞

ふくだ きおり
福田 樹生里 （宇都宮市） 「一瞬の夏」

○ 準文芸賞

さいとう ひろじゅ
齊藤 宏壽 （那須町） 「手術」
あおき かずお
青木 一夫 （さくら市） 「縁」

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25賞）

たての ち ひろ
舘野 知紘 （英国） 「英国留学記」

○ 文芸奨励賞

ふじぬま やすじ
藤沼 靖治 （栃木市） 「渡良瀬遊水池」
たかむら みつお
高村 光夫 （鹿沼市） 「笏ははるか」
さおとめ ひとよ
早乙女 一夜 （栃木市） 「砂時計」
すずき よ
鈴木 みち代 （那須塩原市） 「ノアの方舟」
しらと こ
白土 あい子 （宇都宮市） 「ふるさと」

令和8（2026）年度第80回記念栃木県芸術祭文芸賞審査結果（俳句部門）

○ 応募者数 47人（39人）

○ 入賞者数 7人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

応募数は47点で昨年より8点多くなり、望ましい傾向である。全体として、まとまってはいるものの傑出した作品が少なく、感性、表現等について評価の分かれる結果となった。表記については、若干の誤字も見受けられた。また日頃から使い慣れている季語であっても、改めてその本意や季節感を確認し、作品の中で季語が十分に生かされているかを見直してほしい。

○ 文芸賞 「稲^{いな}ばかり」

破調の句もあったが、そこにリズムがあり、リフレインの効果を巧みに使い、身近な一瞬を鋭い感覚で捉えている。明るさと静けさが交錯し、現代の生活の中にある詩情が浮かび上がる。

○ 第80回記念賞 「冬^{ふゆゆやけ}夕焼」

四季折々の身近な情景を素直に捉え、そこに人の営みや季節の移ろいを重ねた、温かみのある作品である。

○ 準文芸賞 「アッパッパ」

身近な暮らしの中の一瞬を的確に捉え、幅広い題材に温かな眼差しを注いだ作品である。ユーモアもあり、俳諧味もある。読み手への印象にも工夫を。

○ 準文芸賞 「西^{さいぎょうき}行忌」

それぞれに俳句としての確かな力があり、着眼も多彩で、季語の働きもよく生かされている。さらに、観念や思いを具体的な景に託して表現することも必要。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

しらい まさえ
白井 正枝 (栃木市) 「稲^{いな}ばかり」

○ 第80回記念賞

さわい よしあき
澤井 好明 (宇都宮市) 「冬^{ふゆゆやけ}夕焼」

○ 準文芸賞

いがらし とうじゅう
五十嵐 藤重 (宇都宮市) 「アッパッパ」

おおぬき よしあき
大貫 良明 (鹿沼市) 「西^{さいぎょうき}行忌」

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25賞） 該当作なし

○ 文芸奨励賞

あおき ごとう
青木 梧桐 (さくら市) 「青^{あお}螢」

たかの しろう
高野 史郎 (宇都宮市) 「手^て」

つかだ やすき
塚田 康樹 (宇都宮市) 「祭^{まつり}笛^{ぶえ}」

令和8（2026）年度第80回記念栃木県芸術祭文芸賞審査結果（川柳部門）

○ 応募者数 36人（34人）

○ 入賞者数 9人（8人）（ ）内は昨年度実績

【審査寸評】

○ 作品総括

総括として、既視感のあるものが多い事、見たままの表現が多く一步踏み込んだ“その深にあるところをいかに表現するか”川柳のおもしろさと、奥深さが欲しかった。また、誤字、脱字が目についた。初めて参加された方も是非、続けて頂きたいと思う。

○ 文芸賞 「心模様」

何気無い日常をやさしい言葉で詠み込み、余韻を残している好感の持てる作品。

○ 第80回記念賞 「長寿」

第80回記念にふさわしい題名又内容であり、「百態の苦楽演じた深い皺」お元気で人生を謳歌される姿に感服した。

○ 準文芸賞 「弱むし」

静寂な中に自身の弱さを切実に詠み込まれ共感する。

○ 準文芸賞 「老いの呟き」

なるほどの句に同感するも“誉め言葉心を癒す”に拍手。

【入賞者名・作品名】

○ 文芸賞

たけうち	たけ	はな		こころもよう
竹内	竹ノ	花	（宇都宮市）	「心模様」

○ 第80回記念賞

たなか	らいせん		ちょうじゅ
田中	来川	（日光市）	「長寿」

○ 準文芸賞

よこやま	なおし		よわ
横山	直史	（真岡市）	「弱むし」
うちやま	ただし		お
内山	正	（さくら市）	「老いの呟き」

○ 栃木トヨタ自動車賞（U25賞） 該当作なし

○ 文芸奨励賞

こやなぎ	まさあき		かんしゃ
小柳	正明	（芳賀町）	「感謝」
うえの			ふところぐあい
上野	ミツ	（茂木町）	「懐工合」
すずき			えがお
鈴木	るり	（宇都宮市）	「笑顔」
たかはし	おとし		
高橋	音次	（足利市）	「ポジティブに」
たるいし	きよゆき		かんしゃ
垂石	清行	（那須塩原市）	「感謝して」